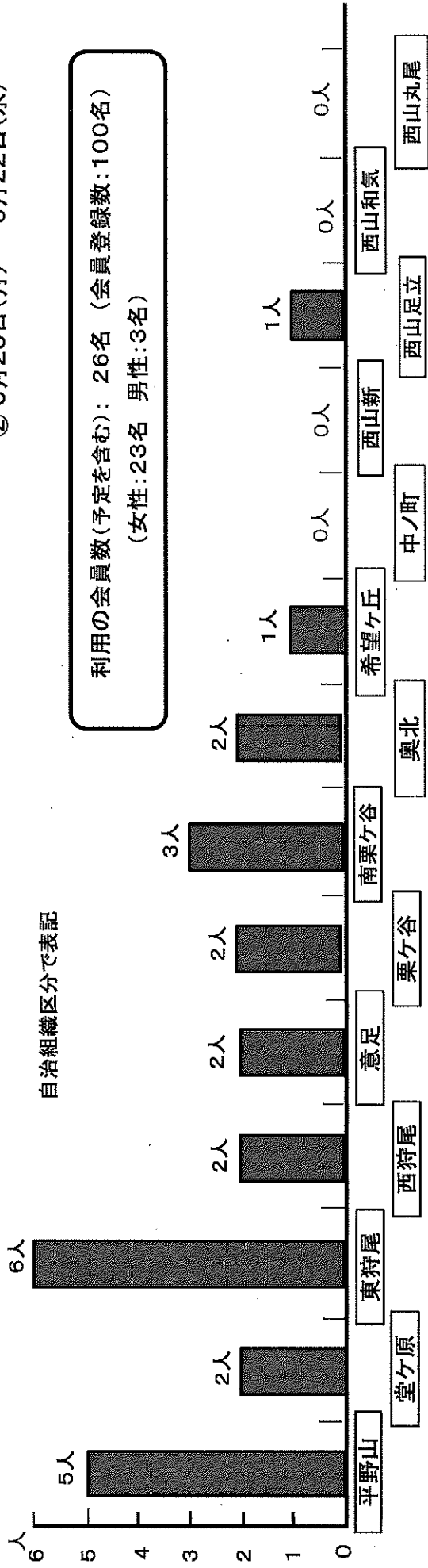


道しるべ 移動サービス 第4次実証実験
利用会員による利用実績の結果のまとめ I

□ サービスを利用された会員のお住まいは？



利用の会員数(予定を含む): 26名 (会員登録数:100名)
 (女性:23名 男性:3名)

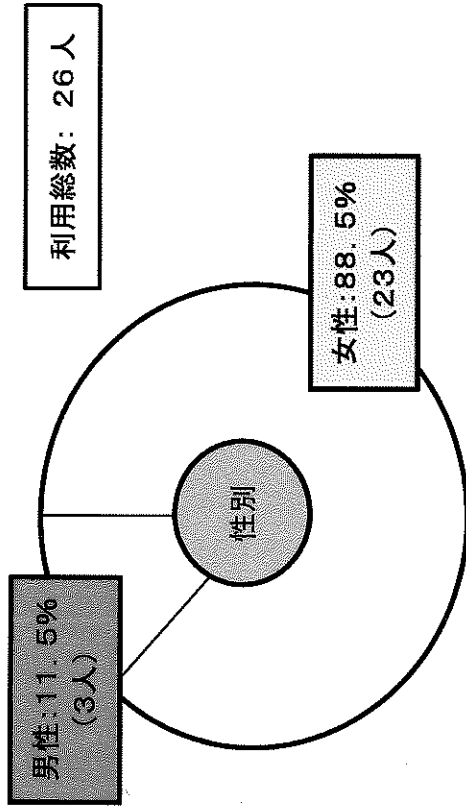
・実証実験 実施期間: ① 5月10日(月) ~ 5月20日(金)
 ② 5月23日(月) ~ 6月22日(水)

□ 個人ごとの利用回数は？

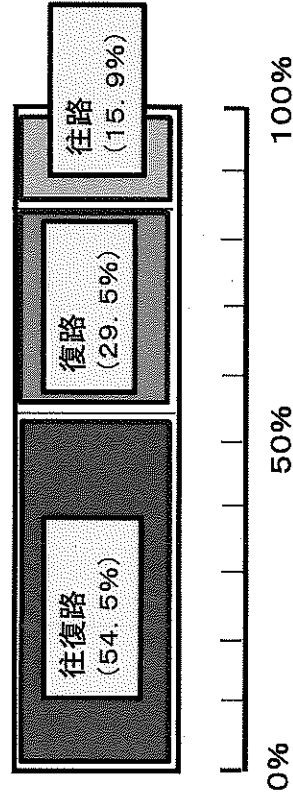
No.	コード	性別	回数	No.	コード	性別	回数	No.	コード	性別	回数	その他
1	S. S	W	16	8	Y. S	M	3	15	M. K	W	2	以下に続く、5名(女性)の方は、それぞれ1回(往復)の利用 合計予約回数:89回 (総運行数:136運行)
2	A. A	W	15	9	T. H	W	3	16	K. O	W	1	
3	S. I	W	12	10	T. M	M	2	17	M. K	M	1	
4	M. T	W	7	11	K. Y	W	2	18	S. Y	W	1	
5	H. I	W	4	12	H. T	W	2	19	S. M	W	1	
6	C. K	W	3	13	K. H	W	2	20	Y. M	W	1	
7	T. O	W	3	14	R. T	W	2	21	K. K	W	1	

利用会員による利用実績の結果のまとめ Ⅱ

□ 利用された会員の性別は？

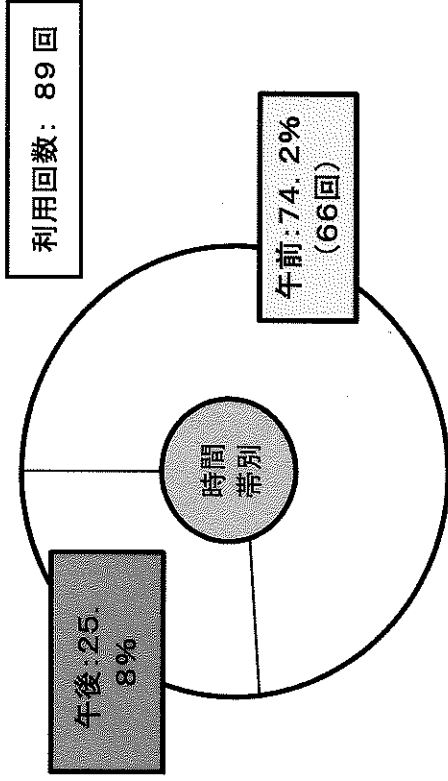


□ 利用モード(往復・片道)は？



(5/10~6/22のサービス期間)

□ 利用された時間帯(午前・午後)は？

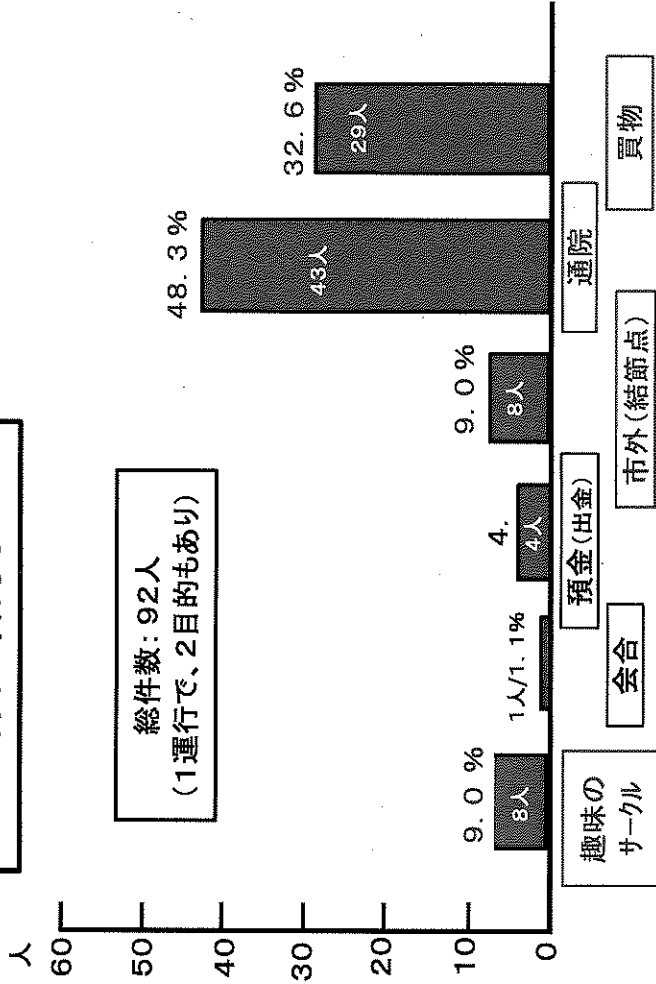


□ 外出が多い曜日は？ (5/23~6/22で、お試し体験会を除く)

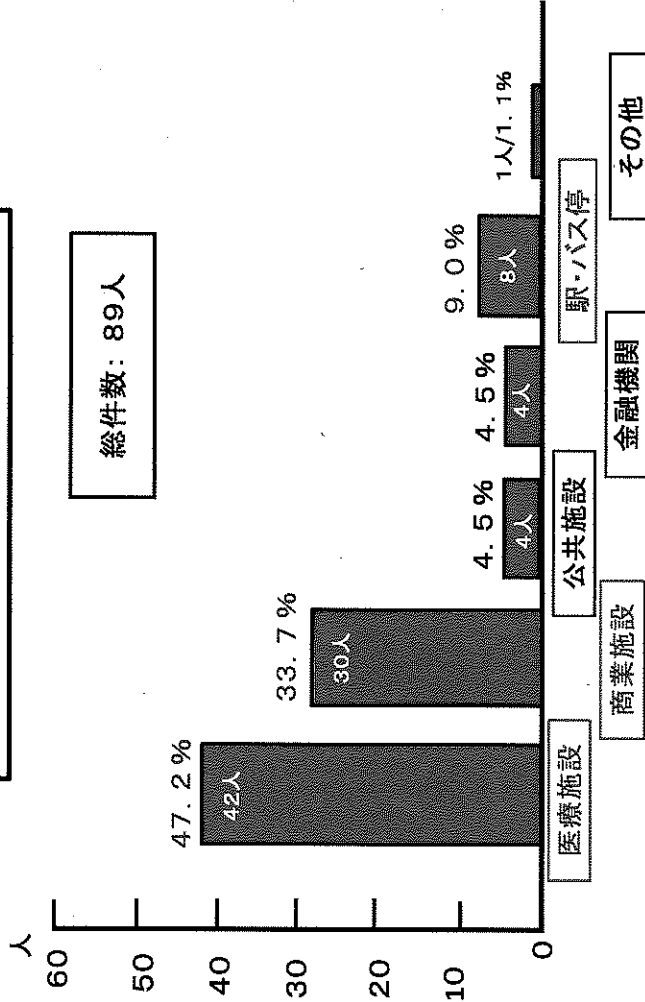
曜日	運行日数	利用人数	占有率 (%)
月曜日	5	12人	18.8
火曜日	5	22人	34.4
水曜日	5	5人	7.8
木曜日	4	16人	25.0
金曜日	4	2人	3.1
土曜日	4	8人	12.5
合計	64人	(27日)	100%

利用者による利用実績の結果のまとめ Ⅲ

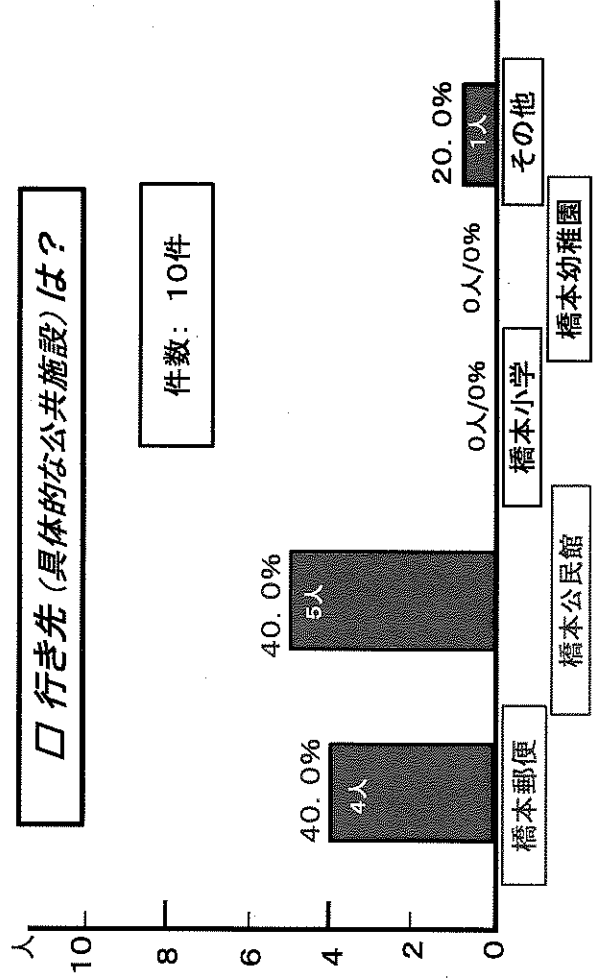
□ 外出の目的は？



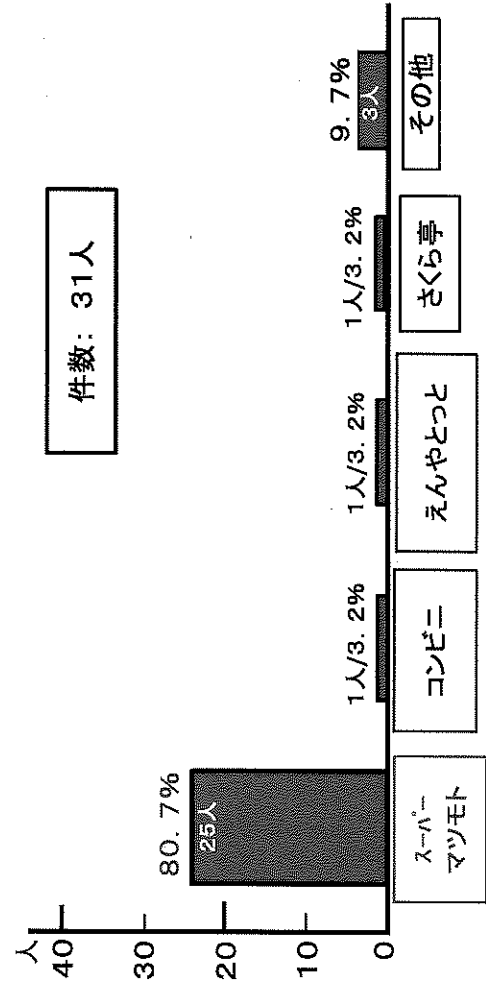
□ 行き先 (施設分類) は？



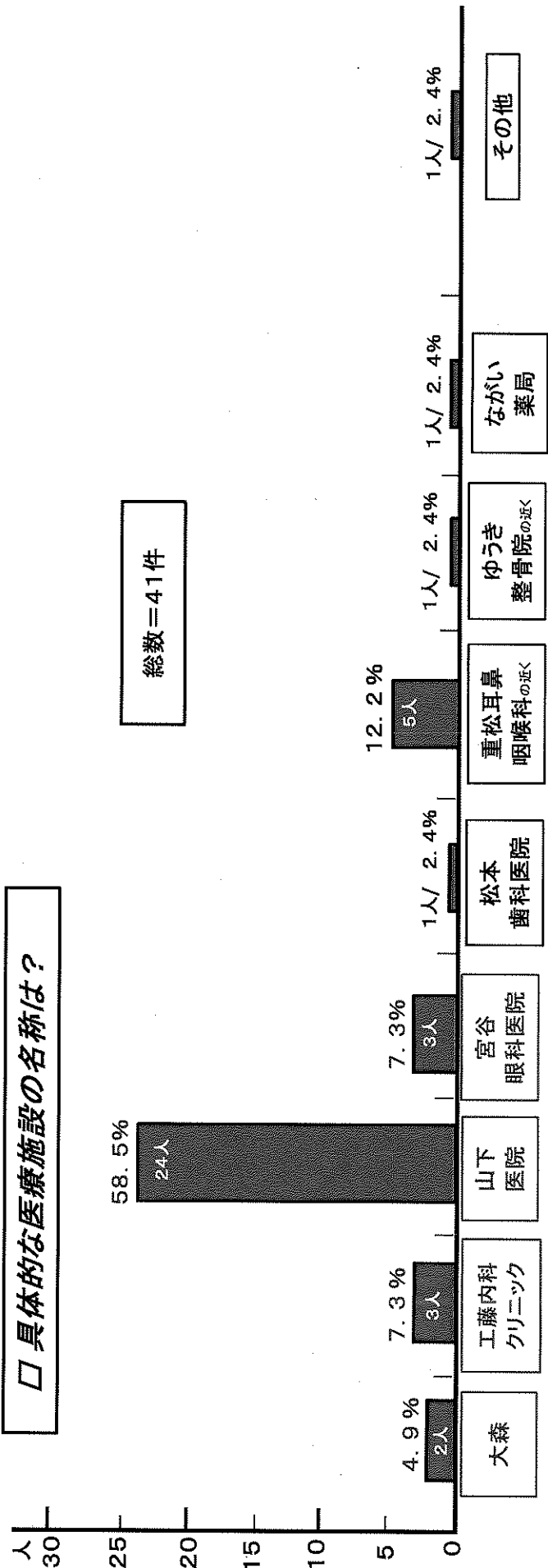
□ 行き先 (具体的な公共施設) は？



□ 行き先 (商業施設) は？



道するべ 移動サービス 第3次実証実験の
利用会員による利用実績の結果のまとめ IV



これらの結果からわかったことは……

- 1、利用会員のお住まいは、橋本西山地域にほぼ分散しているが、4カ所の自治地域で、まだ会員の登録(入会)がない。
- 2、今回の第4次実証実験では、利用会員数は26人を数え、第3次の17人を大きく上回った。また男性の利用者も3名あった。今後の利用者の増加に期待がもてる。しかしながら、現在の会員のサービス利用率は約25%(4人に1人)と極めて低調。
- 3、運行数は、総計136運行を記録し、第3次の87運行を大きく上回った。今後の取り組みで、運行数は確実に増える可能性大。
- 4、利用する時間帯は、午前中の利用が約75%と、午後の25%を大きく上回り、3倍の利用状況。運転協力者の配置に要考慮。
- 5、利用の方法として、往復の利用が50%を超えるが、一方では、復路のみの利用も約30%程度ある。利用の仕方として、片道の利用の方法(特に買物の帰りに)もあることを、あらためて認識。また、目的地の近くまで送迎する「ワンマイル・ストップ・サービス」を行った例もあった。
- 6、利用の曜日としては、突出して運行数の多い曜日は存在しない。一方、運行が「ゼロ」の曜日はない。(医院の休業曜日(水・木)で、今後少なくなるとも……。)

- 7、行き先別の分類では、最も多い病院関係で48%、買物で33%、次に公共施設が9%。その次に乗り継ぎの為に橋本駅へが7件あり、これは予測を上回る。バス関係の送迎は、コミュニティバスのバス停への1件のみで、交通結節点への送迎は意外と少ない。
- 8、今回の第4次実証実験で、初めて利用された会員の方が10名おられ、周知のピラと前段の10日間の「お試し体験」の効果があつたものと推測。
- 9、外出の目的は、通院(48.3%)を筆頭に、買物(32.6%)、趣味のサークル(9%)、遠方の外出(9.0%)と続く。
- 10、行先は、医療施設が47.2%で、商業施設が33.7%、駅・バス停は9.0%、公共施設は4.5%、金融機関が4.5%と続く。
- 11、具体的な行先としては、医療施設では山下医院(24人)、工藤内科クリニック(3人)、宮谷眼科(3人)、大森医院(2人)と、かかりつけ医への通院が、ほぼ日常的にある。(地域内には開業科が無いため、重松耳鼻咽喉科の利用をされている方もいる。) 商業施設としては、スーパー マツモト(80.7%)をはじめとして、コンビニ、えんやとつと や さくら亭 の利用が続く。公共施設(関連を含む)としては、橋本公民館(40.0%)、橋本郵便局(40.0%)、八勝館(20.0%)が利用されている。
- 12、地域外への送迎の問合せ(例えば、男山病院や八幡中央病院、八幡市役所や八寿園など)が、期間中に数件あった。(都度、代替えの手段として、コミュニティバスや京阪バスの停留所(交通結節点)への送迎提案をおこなった。が、残念ながらその経路を利用しての外出は、今回の実証実験ではなかった。)

今後の取り組みについて

- 1、移動支援サービスの運行の仕組み(作業マニュアルの整備、IT運行システムの導入等)や担当者の確保を担保すること。併せて、利用率の向上施策や利用会員の登録がない地域にお住まいの方々に、入会のお勧めを行うこと。域外の施設等の利用者に対しては、公共交通機関の結節点(例えば、バス停など)への送迎を積極的に提案し、そういった利用を促す。
- 2、移動支援サービスの自律的な運営を図るため、組織(NPO法人道しるべ)内での位置づけと関連スタッフの拡充を図ること。
- 3、「地域公共交通会議等において協議が調ったことを証する書類」等を整備し、国土交通省 近畿運輸局へ、「公共交通空白地有償運送」の登録申請を行い、運行の許可を得ること。
- 4、結果として、運行事業の仕組みの完成度を上げ、今年度の下半期には本格的な有償運行へ移行すること。(別紙、令和4年の事業計画(案)を参照のこと。)